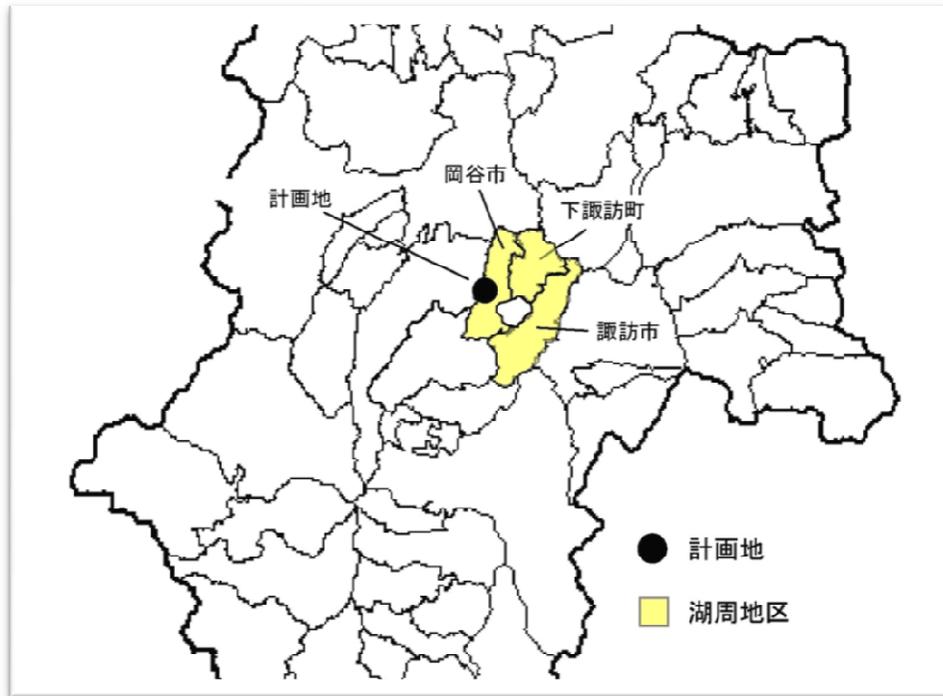


ごみ処理施設建設 事業計画の概要

平成23年10月
湖周行政事務組合

湖周地区の概要

湖周地区：岡谷市、諏訪市、下諏訪町



岡谷市

人口：52,752人
世帯数：19,474世帯
面積：85.14km²

諏訪市

人口：51,214人
世帯数：20,536世帯
面積：109.06km²

下諏訪町

人口：21,512人
世帯数：8,358世帯
面積：66.90km²

合計

人口：125,478人
世帯数：48,368世帯
面積：261.10km²

(平成23年1月1日現在)

組合の設立、事業

名 称 : 湖周行政事務組合
構成市町 : 岡谷市、諏訪市、下諏訪町
設立年月日 : 平成 23年 9月 1日
組 合 長 : 岡谷市長 今井 竜五

ごみ処理方式の決定、環境アセスメント(環境影響評価)の実施、測量調査、施設の基本設計などを計画的に進め、早期稼働に向け2市1町で力を合わせ、全力で事業推進に取り組めます。

事業の目的

- * ごみ処理に関する施策の円滑な実施を図り、循環型社会を構築する
- * 2市1町でごみ処理を共同化することにより、効率的にごみ処理を行う
- * 2市1町の焼却処理施設が老朽化してきており、処理を集約しつつ、施設を更新する

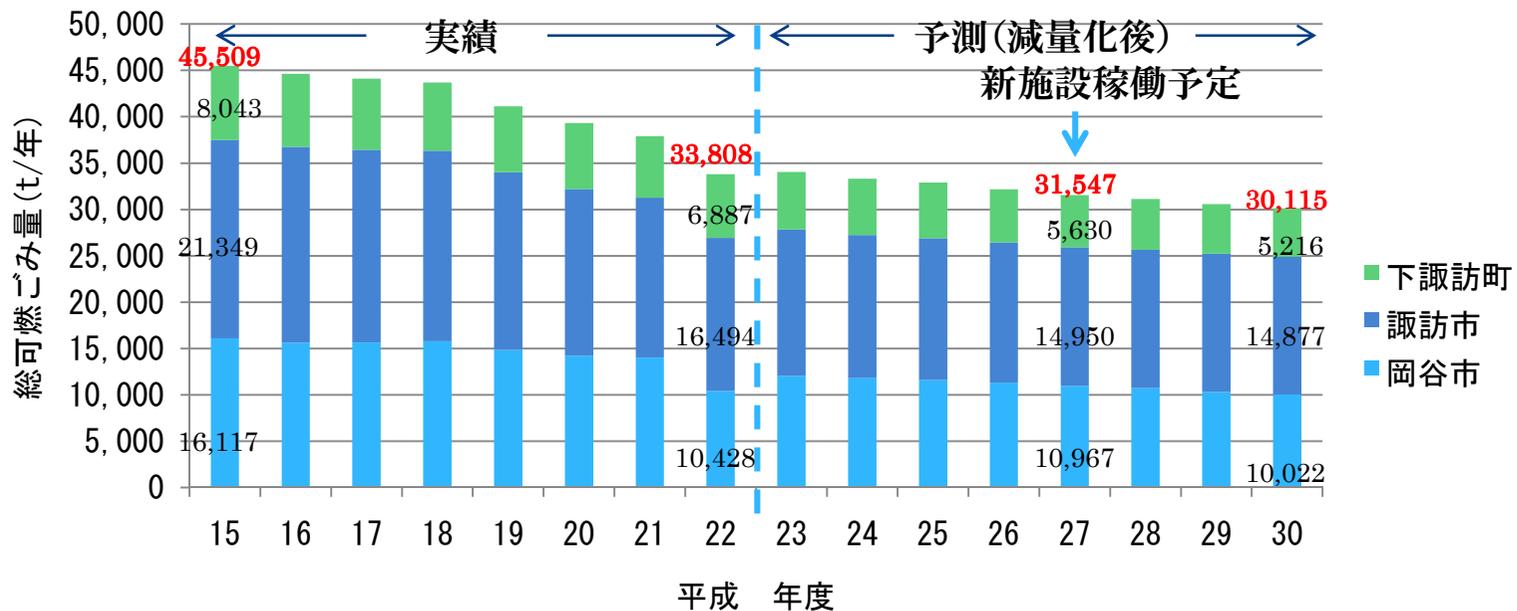
施設の老朽化と更新

	規模	使用開始年度	経過年数
岡谷市清掃工場	80t/日 (40t/16h×2炉)	昭和61年度	25年
諏訪市清掃センター	80t/日 (40t/16h×2炉)	昭和62年度	24年
下諏訪町清掃センター	36t/日 (18t/8h×2炉)	平成10年度	13年
		↓	
新施設	120t/日 (60t/24h×2炉)	平成27年度 (目標)	—

2市1町のごみ処理を統合し、効率のよいごみ処理を行うとともに、老朽化した施設を更新し、環境負荷が少ない最新の施設とする。

可燃ごみ量の推移と目標

- 可燃ごみ量の減少
- 施策による、さらなるごみの減量化
- 新施設稼働予定の平成27年度には31,547t/年とする目標
→ 施設規模を120t/日と設定



3つの基本方針

- ①1Rから3Rへの転換
- ②環境負荷の少ないごみ処理システムの構築
- ③広域ごみ処理体制の整備

「ごみ処理基本計画」(平成21年3月修正)より

施設建設に係る方針

- ①高性能、最新鋭のごみ処理施設とする
- ②建設場所の立地条件、環境との調和、環境負荷の低減、安全性及び機能性を考慮する
- ③合理的及び経済的で、かつ維持管理が容易な施設とする
- ④工場管理要員にとって、安全かつ衛生的で働きやすい労働環境を確保する

「廃棄物循環型社会基盤施設整備事業計画」
(平成21年3月)より

ごみ処理施設の建設に係る経緯

平成17年3月	「ごみ処理基本計画」を策定。岡谷市、諏訪市、下諏訪町の2市1町でごみ処理を共同で行う方針を決定。
	ごみ処理施設の建設地を検討。 岡谷市清掃工場敷地を建設地として選定。
平成21年3月	「ごみ処理基本計画」を修正、ごみ処理施設の規模の算定を実施し、120t／日と設定。また、施設稼動年を平成27年度とし、ごみ処理方式の検討を実施。
平成23年3月	建設地である岡谷市清掃工場の最も近くにある樋沢地区から建設事業への協力が表明されるとともに、2市1町の首長会で最終合意に至る。
平成23年7月～8月	建設地の周辺の地区（樋沢地区、間下区、岡谷区、三沢区）で、環境影響評価の方法書素案の説明会を実施。頂いた意見を方法書に反映。
平成23年8月	岡谷市、諏訪市及び下諏訪町の連名で環境影響評価の方法書を作成。長野県が公告・縦覧。
平成23年9月	ごみ処理施設建設の事業主体となる湖周行政事務組合が発足、ごみ処理施設建設に係る事業を引き継ぐ。

建設地の選定の経過

3か所を比較検討

- ・岡谷市清掃工場敷地
- ・諏訪市清掃センター敷地
- ・下諏訪町清掃センター敷地

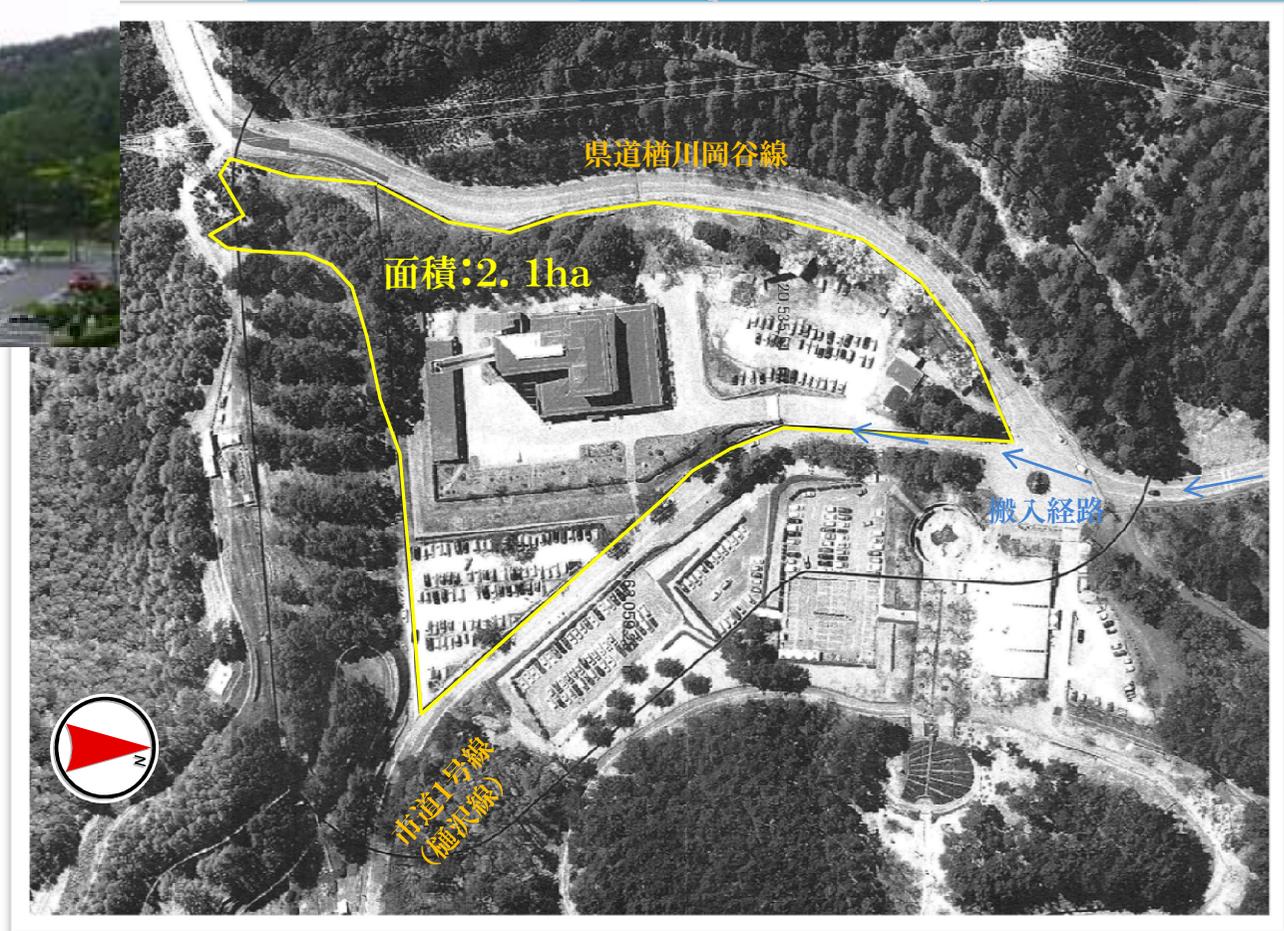


岡谷市清掃工場の敷地を建設地に選定

- * 敷地が最も広く、面積が確保されている
- * 造成費用の面で経済性に優れている
- * 主要幹線道路に接しており、搬入しやすい

「湖周地区ごみ処理施設建設候補地比較・検討報告書」(平成17年3月)

岡谷市清掃工場(現施設)



建設地周辺



処理方式の検討経過

平成16年度

①焼却炉＋灰溶融炉 ②ガス化溶融炉
から選択する方針



平成20年度

①焼却炉 ②焼却炉＋灰溶融炉 ③ガス化溶融炉
④炭化炉 から選択する方針



平成23年度

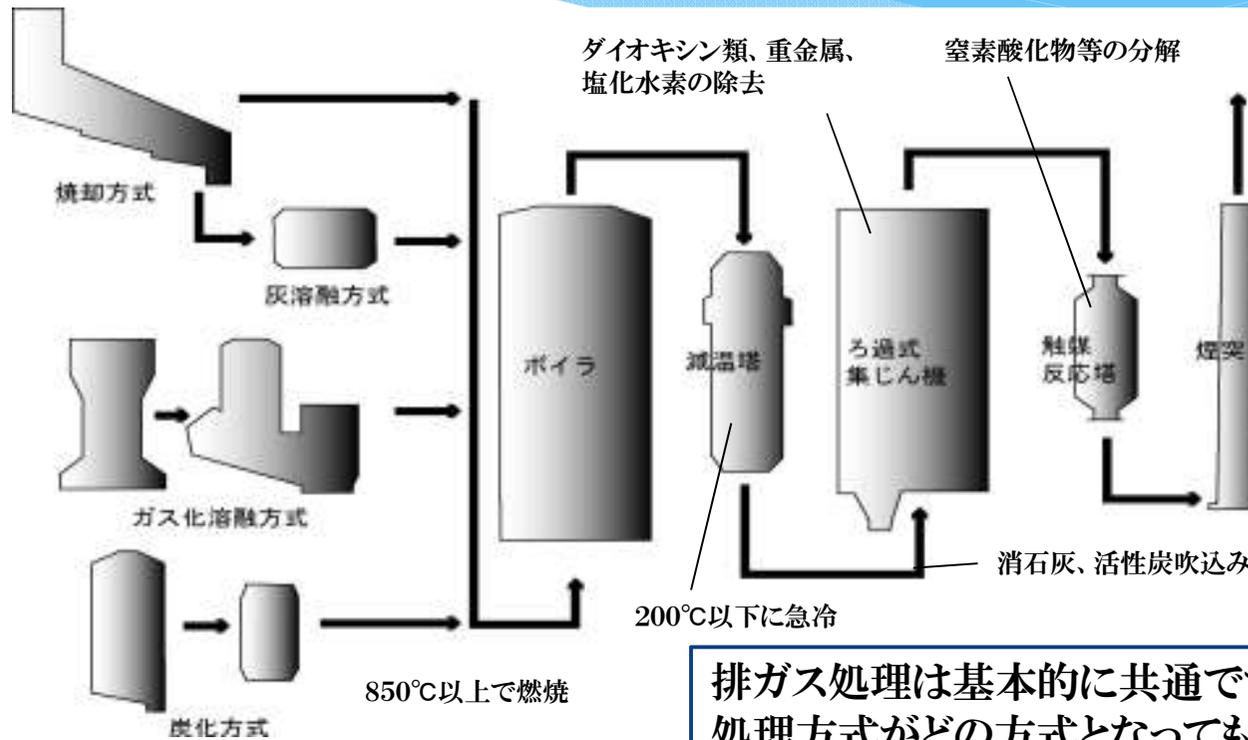
8月 市民を対象とした「ごみ処理方式を考えるシンポジウム」開催
9月 処理方式検討委員会による検討を開始

主要設備の概要

項目	内容
ごみ受入供給設備	ピット・アンド・クレーン方式
燃焼設備	焼却炉、焼却炉＋熔融炉 ガス化熔融炉、炭化炉のうちのいずれか
燃焼ガス冷却設備	ボイラー方式
排ガス処理設備	ばいじん：ろ過式集じん方式 塩化水素、いおう酸化物：乾式有害ガス除去方式 窒素酸化物：触媒脱硝方式 ダイオキシン類：燃焼管理、触媒分解方式
熱回収設備	発電、給湯等
通風設備	平衡通風方式 煙突高さ：59m
灰出設備	主灰：ピット・アンド・クレーン方式 飛灰：薬剤処理の上、ピット・アンド・クレーン方式又はバンカ方式 スラグ：ヤード方式 炭化物：サイロ方式
給水設備	プラント用水、生活用水：上水道
排水処理設備	ごみピット排水：炉内噴霧高温酸化方式 プラント排水：凝集沈殿（処理水は炉内噴霧、汚泥は脱水後焼却） 生活排水：処理後再利用（処理水は炉内噴霧、汚泥は脱水後焼却）

注) 一般的な事例より想定される内容として示したものです。

排ガス処理の概要



排ガス処理は基本的に共通です。
処理方式がどの方式となっても、計画値をクリアするように設計します。

排ガスに関する計画値

項目	計画値	法規制値(許容限度)等
ばいじん量	0.01 g/ Nm ³ 以下	0.04 g/ Nm ³ 以下
いおう酸化物	30 ppm以下	K値 14.5 (約2,000 ppm)
塩化水素	50 ppm以下	430 ppm 以下 (700mg/Nm ³)
窒素酸化物	100 ppm以下	250 ppm以下

その他の環境保全対策

＜臭気対策＞

密閉構造を基本とし、臭気漏洩が無いよう設計する

＜景観対策＞

生理的、心理的影響を考慮した色彩計画、照明計画とする

＜騒音・振動対策＞

搬入車両は国道、県道を通行し、生活道路を出来る限り走行しない

など



建設に係る予定期間

項目	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度
処理方式の検討	■					
環境影響評価	■	■	■			
施設基本設計等		■				
工事概略設計、実施設計			■			
現施設解体工事				■		
設計・建設工事				■	■	
供用開始						■

平成27年度中の供用開始を目指しています。